

定期作況報告

(第4号 平成11年8月20日現在)
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

7月下旬：最高気温および最低気温は平年より各々0.3℃、2.6℃高かった。降水量は平年より110mm多く、平年対比329%であった。降水日数は平年より4日多かった。日照時間は平年より23.2時間少なく、平年対比48%であった。夏日（最高気温25℃以上）は8日間であった。

8月上旬：最高気温および最低気温は平年より各々5.0℃、4.9℃高かった。降水量は平年より1mm少なく、平年対比97%であった。降水日数は平年より1日多かった。日照時間は平年より32.3時間多く、平年対比172%であった。夏日は8日間で、うち7日間は真夏日（最高気温30℃以上）であった。

8月中旬：最高気温および最低気温は平年より各々6.5℃、3.3℃高かった。降水量は平年より49mm少なく、平年対比4%であった。降水日数は平年より4日少なかった。日照時間は平年より51.9時間多く、平年対比275%であった。夏日は10日間で、うち6日間は真夏日であった。

7月下旬から8月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	26.8	26.5	0.3	30.5	25.5	5.0	30.7	24.2	6.5	29.3	25.4	3.9
最低気温(℃)	19.8	17.2	2.6	20.5	15.6	4.9	19.1	15.8	3.3	19.8	16.2	3.6
平均気温(℃)	22.9	21.4	1.5	25.4	20.2	5.2	24.4	19.5	4.9	24.2	20.4	3.9
降水量(mm)	158	48	110	31	32	▲1	2	51	▲49	191	131	60
降水日数(日)	8	4	4	4	3	1	1	5	▲4	13	12	1
日照時間(h)	21.6	44.8	▲23.2	77.0	44.7	32.3	81.6	29.7	51.9	180.2	119.2	61.0

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作況

1) 水稻の部

作況 良

事由： 止葉期は各品種・苗とも平年より1～3日早く、出穂期は各品種・苗とも平年より3～5日早かった。最終止葉葉数は「ゆきひかり」中苗が平年より0.1枚多かったが、他の品種・苗は平年より0.1～0.5枚少なかった。穂揃日数は5～6日で、各品種・苗とも平年並～1日短かった。

稈長は「ゆきひかり」中苗を除き平年より0.4～5.0cm長かった。穂長は各品種・苗とも平年より0.2～1.6cm長かった。㎡当たり穂数は各品種・苗とも平年より多く、平年比108～122%であった。出穂後20日の登熟歩合は、中苗で平年より3.1～7.6%高かった。「きらら397」成苗は出穂後25日の登熟歩合が49.8%で、出穂後30日目平年値(39.7%)より高かったため、各品種・苗とも登熟は平年より進んでいる。

以上、出穂期が3～5日早く、穂数が平年より多く、登熟も平年より進んでいるため、目下の作況は「良」である。

表2 生育期節

品 種 苗	止葉期 (月・日)			出穂期 (月・日)			最終止葉葉数 (枚)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	7.17	7.19	△2	7.26	7.29	△3	11.1	11.4	▲0.3
ゆきひかり 中苗	7.18	7.21	△3	7.28	8.02	△5	10.7	10.6	0.1
イシカリ 中苗	7.15	7.18	△3	7.23	7.28	△5	10.1	10.6	▲0.5
ゆきまる 中苗	7.16	7.18	△2	7.24	7.28	△4	11.1	11.2	▲0.1
きらら397 成苗	7.16	7.17	△1	7.24	7.28	△4	10.9	11.2	▲0.3

注1) 平年値は平成6～10年の5か年の平均値。

2) △・▲印は平年に比べて早・減を示す。

3) 止葉期・出穂期：全茎の40～50%に達した日

表3 生育調査

品 種 苗	稈長 (cm)			穂長 (cm)			穂数 (本/m ²)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)
きらら397 中苗	69.8	66.6	3.2	16.6	15.9	0.7	743	688	55	108
ゆきひかり 中苗	72.7	72.8	▲0.1	17.3	16.9	0.4	723	593	130	122
イシカリ 中苗	68.3	67.7	0.6	17.7	16.8	0.9	688	604	84	114
ゆきまる 中苗	67.5	67.1	0.4	18.1	16.5	1.6	703	642	61	110
きらら397 成苗	71.3	66.3	5.0	16.3	16.1	0.2	769	710	59	108

注1) 平年値は平成6～10年の5か年の平均値。

2) ▲印は平年に比べて減を示す。

表4 出穂後経時登熟歩合

品 種 苗	出穂後20日登熟歩合			出穂後25日登熟歩合		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	10.5	2.9	7.6	—	—	—
ゆきひかり 中苗	9.3	6.2	3.1	—	—	—
イシカリ 中苗	13.2	5.9	7.3	—	—	—
ゆきまる 中苗	10.5	2.9	7.6	—	—	—
きらら397 成苗	—	5.2	—	49.8	(39.7)	—

注1) 平年値は平成6～10年の5か年の平均値。()は出穂後30日目登熟歩合。

2) 登熟歩合は比重1.06の塩水選で求めた。

2) 畑作の部

(1) 秋播小麦 作況：良

事由：穂数は、「ホクシン」が平年並の他は平年より70本/m²~80本/m²多かった。リットル重は「タイセツコムギ」で平年並の他は平年より18g~35g軽かった。千粒重は、平年より0.3g~4.7g軽く、特に「ホクシン」で軽かった。子実重は、対平年比107%~115%と多収を示し、3品種平均の子実重対平年比は111%であった。

したがって作況は、良である。

表1 秋播小麦の収量

品 種 名	穂 数 (本/m ²)			リットル重 (g)			千 粒 重 (g)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ホロシリコムギ	593	513	80	742	760	▲18	42.5	42.8	▲0.3
タイセツコムギ	590	520	70	764	763	1	37.2	39.7	▲2.5
ホクシン	646	639	7	746	781	▲35	35.1	39.8	▲4.7

品 種 名	総 重 (kg/10a)			子 実 重 (kg/10a)			子実重平年比 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ホロシリコムギ	1,544	1,468	76	545	472	73	115	100	15
タイセツコムギ	1,328	1,379	▲51	556	497	59	112	100	12
ホクシン	1,476	1,544	▲68	599	562	37	107	100	7

注) 「ホロシリコムギ」、「タイセツコムギ」の平年値は、前5か年平均値。
「ホクシン」の平年値は、前4か年平均値。▲は平年より減を示す。

(2) とうもろこし 作況：やや不良

事由：抽雄期は平年並か平年より早かったが、抽糸期は7月下旬の連続した降雨の影響で平年より遅れ、特に晩生の「P3732」でその影響が大きく、雌穂の着生も悪い。草丈はほぼ平年並であるが、出葉数は両品種とも平年より0.8枚少ない。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表2 8月20日のとうもろこしの生育

品 種 名	抽 雄 期 (月日)			抽 糸 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ	7.23	7.25	△ 2	7.30	7.29	▲ 1
P3732	7.29	7.29	0	8.10	8.2	▲ 8

品 種 名	草 丈 (cm)			出 葉 数 (枚)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ	276	276	0	17.0	17.8	▲0.8
P3732	294	309	▲15	18.2	19.0	▲0.8

注1) 平年値は、前5か年の平均値。
2) 平成10年より栽植本数を7576本/10aに変更した。
3) △は平年より早を示す。
▲は平年より減を示す。

(3) 大豆 作況 : やや良

事由：開花期は平年より5日～6日早く、その後も高温が続いているため、登熟は順調に進んでいる。主茎長は平年より短く、主茎節数も平年よりやや少ないが、着莢数はほぼ平年並である。

したがって、目下の作況はやや良である。

表3 8月20日の大豆の生育

品種名	開花期(月日)			主茎長(cm)			主茎節数(節)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
トヨムスメ	7.12	7.18	△6	54	59	▲5	9.7	10.3	▲0.6
トヨコマチ	7.12	7.17	△5	59	63	▲6	10.5	11.0	▲0.5

品種名	分枝数(本/株)			着莢数(個)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
トヨムスメ	7.5	6.0	0.9	82	85	▲3
トヨコマチ	6.1	6.2	▲0.1	77	79	▲2

注1) 平年値は、前5か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

(4) 小豆 作況 : 平年並

事由：早生の「サホロショウズ」の開花期は平年より4日早かったが、中生の「エリモショウズ」はほぼ平年並であった。主茎長、本葉数とも平年を上回っているが、分枝数はほぼ平年並である。

したがって、目下の作況は平年並である。

表4 8月20日の小豆の生育

品種名	開花期(月日)			主茎長(cm)			本葉数(枚)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
サホロショウズ	7.17	7.21	△4	61	58	3	11.5	10.5	1.0
エリモショウズ	7.24	7.23	△1	60	53	7	11.7	10.9	0.8

品種名	分枝数(本/株)		
	本年	平年	比較
サホロショウズ	6.1	6.2	▲0.1
エリモショウズ	5.9	6.2	▲0.3

注1) 平年値は、前5か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

(5) ばれいしょ 作 況 : やや不良

事 由：前期から8月中旬まで続いた高温と7月下旬の多雨により「農林1号」の茎長は平年を大きく上回った。このため、二次生長として土中で5mm以上芽を出した塊茎が1割程度見られ、収量と品質の低下が予想される。

「男爵いも」の茎長は前期とほとんど変わらずほぼ平年並であった。二次生長もほとんど見られなかった。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表5 8月20日のばれいしょの生育

品 種 名	茎 長 (cm)		
	本 年	平 年	比 較
農林1号	92	71	21
男爵いも	47	47	0

注) 平年値は、前5か年の平均値。

(6) てんさい 作 況 : やや不良

事 由：7月下旬の多雨と8月上旬の降雨および8月上、中旬の高温により、草丈は2品種ともほぼ平年並に回復し、「モノホモレ」の葉数もほぼ平年並に回復した。しかしながら8月中旬の干ばつの影響により、「ストーク」の生葉数と2品種の根周は生育の遅れを回復できず平年をやや下回った。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表6 8月20日のてんさいの生育

品 種 名	草 丈 (cm)			生 葉 数 (枚/株)			根 周 (cm)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
モノホマレ	60	58	2	26.8	27.4	▲0.6	27.0	29.9	▲2.9
ストーク	57	58	▲1	24.8	27.8	▲3.0	29.3	33.4	▲4.1

注) 「モノホマレ」の平年値は、前5か年平均値。

「ストーク」の平年値は、前2か年平均値。